



You Tube
録画中継は
こちらから



小山田 剛 士
(黎明親和会)

市長が描く 10年後の十和田市は

シビックプライドを持てる市へ

問 第3次総合計画で市長が描く10年後の十和田市の将来像は。

答 美しく豊かな自然環境、町なかに広がるアート、洗練された建築物、豊かな農畜産物など全国に誇れる上質な地域資源をさらに磨き上げ、全国へ発信しながら、企業や人材など新たな力を呼び込み、若い世代に選んでもらえる持続可能なまちづくりが、今後の市の発展に重要だと考えています。市民一人一人が本市に住む喜びや誇りを感じられる、いわゆるシビックプライドを持てる市として歩んでいける将来像を描いています。

問 計画策定にあたり、市民の声をどのように拾い、反映させるか。

答 年齢や性別等にかかわらず様々な立場の方の意見を集約するなど、多様な市民参画の機会を設けることとしています。具体的には、総合計画審議会や総合計画策定市民委員会の委員から意見をいただいているほか、市民、小中高生、北里大学生へのアンケートの実施、市民ワークショップ、若者ワークショップ、市ホームページでの意見募集などを実施し、多くの市民よりご意見をいただいています。各種ワークショップは令和8年度も実施し、分野ごとにグループを分け、基本構想実現のための具体的な施策について、ご意見を伺いたいと考えています。

問 ウェルビーイング（市民の幸福度）指標を計画にどのように生かすのか。

答 市民アンケートで把握したウェルビーイングは10点満点中6.4点であり、この数値を本市の基準値とし、第3次総合計画ではこの値を引き上げることを目標に施策を展開します。前期計画終了時に市民アンケートを実施し、基準値と比較して後期計画に反映させたいと考えています。



You Tube
録画中継は
こちらから



氣 田 量 子
(自民公明クラブ)

憩いのカフェサロンの開催場所に 冷房設備設置を

主催者と連携しながら 課題解決に努める

問 東コミュニティセンターにおける「憩いのカフェサロン」は全世代が交流する心のインフラとして機能していると思いますが、開催場所のロビーには冷房設備がなく、熱中症のリスクが極めて高い状況にあるため、冷房設備を設置する考えは。

答 ロビーは、利用者が一時的にくつろぐための共用スペースであり、長時間の滞在を想定した設計ではないことや費用面の課題から冷房設備は設置していません。熱中症のリスクはあると認識しているため、夏季の期間中はすでに冷房設備が整備されている部屋を有効に利用するなど、開催場所の検討を含め、主催者の東地区コミュニティ推進協議会と課題解決に努めていきたいと考えています。

問 発災時の災害廃棄物の仮置場について、具体的なシミュレーションと円滑な処理に向けた今後の取組は。

答 令和8年度末までに災害廃棄物処理の「初動対応マニュアル」を作成したいと考えています。

問 現場の混乱を防ぎ、迅速な支援を届けるために、DXを活用した避難者マネジメントシステムを導入する考えは。

答 システムの導入は先行自治体の事例も参考に、検討を進めていきたいと考えています。

問 介護職員が専門業務に専念できる環境を整えるため、介護現場に隙間時間を活用して業務を担う有償ボランティアとのマッチングサービスである「スケッター」を導入する考えは。

答 新たな人材確保に資する有効な手法と捉えているため、現場の実情を把握し、導入の是非を検討したいと考えています。